

物を使って永遠をつくる

karinomaki

はじめに

この文章では、物を使うことが永遠につながるということについて書いてみたいと思います。

最近、便利な世の中になり、私たちはたくさんの物に助けられて生きています。しかし、物の本当の力を引き出すことを知っていると、そのことは永遠の力を導き出すことにつながると思うのです。

永遠の力とは、永遠の魂の存在できる力です。この世界には、たくさんのつらいことがあり、どんなに幸せそうに見える人も、何かを背負って生きています。しかし、その背負っている荷物を軽くしてくれ、永遠の魂へ向けて進ませてくれる・・・そんな力を、物に持たせることができるのです。その方法を書いてみたいと思います。

私はずっと、一つの指輪に苦しみを背負わせて生きていました。何も救いがないとき、物に救いを求めたのです。しかし、苦しみを吸った指輪は次第に心の中で重たくなり、本当に苦しいことを呼び寄せるようになってしまいました。そのとき、私は何かその指輪の重たい念をとって来て、苦しい現実をいい方向へ向かわせてくれる物がないか、買い物をするたびに探すようになりました。一つの物を大切にするとき、重たい念を入れすぎず、美しい想念を入れないといけないのですね。指輪は私の痛みそのものになってしまいました。私のつらい過去そのものになってしまいました。しかし、私は指輪と重い過去をはなせませんでした。そして、私はその重たさをとってくれるものを買い物で探しまくったのです。

永遠への柱

私が探した物は、主に日用品でした。苦しい毎日を楽しく改善してくれる物を、いつも探しました。例えば、とても苦しいことを背負っているとき、何かがかっかけですつと乗り越えられたという経験が必ずあると思うのです。それは、友達がくれた一つの言葉かもしれないし、美しい景色かもしれません。私はそういう経験を、物によってしようと思っていました。きっと、私の暗い毎日を明るくしてくれる物があるはずだと思っていました。

しかし、苦しいことは何か買ったもので少しいやされ、改善されても、その状態はずっと続くことはありません。人生の苦しみのとげは、抜いても抜いても刺さってきます。

そうか、私はたくさんのごとと戦い続けるために生きているのかと、少し投げやりに私は考えました。しかし、不思議なことにそう思ったとたん、私は生きることが少しだけ楽になっていました。そして、今まで買い物をしながら探して、これで生きることが楽になると一時的に思いこんできた、でもその癒しが長くは続かなかった物たちが、私が向上するためにひとつひとつ押し上げてくれていたことが、感じられたのです。

私は柱をのぼっているのだと思いました。そして、ひとつひとつの出来事や、物たちは、その、永遠への柱をのぼる足がかりとなっていたことがわかりました。

人生の階段と、物

人生の階段は、ずっと続きます。その階段を美しくつくってくれるものの一つは、私たちのまわりの物たちだと思います。苦しいときに少しだけ生活を楽しませてくれた便利なもの、ずっとかかえてきた問題を少し解決してくれた物・・・それらの価値がわかるのは、苦しみがすっきり解消できたときというわけではなく、「自分は戦い続けるのだ。だからこそ、たくさんの物に助けられて、楽しく戦い続けよう」と思ったときだと思います。もし、苦しみが全て解決されるような、万能なものに出会えたのなら、本当に素晴らしいです。しかし、そこで宝探しをやめてしまうと、それが、戦い続け、のび続ける柱の終点になってしまいます。それは、たくさんのこれから出会うものたちとはもう出会わなくてもいいと思っていることと同じです。

買い物をして、心がときめくような物との出会いは、きっと、これが私の人生をよりよくしてくれると思うからです。そういう物とは、たくさんの出会いがある方が楽しいですね。たくさんの物に助けられて、人生の階段をのぼり続けてこそ、永遠の魂の柱をつくっていけないのでしょうか。

階段の踊り場

人生の階段は、ずっとのぼり続けるものです。しかし、その踊り場で、今までの苦しみを見返したとき、苦しみを少しときほぐしてくれた様々なものが、しみじみ思い出されるものです。これからものぼり続けるための一息だからこそ、今までの救いに感謝する気持ちが心地いいのだと思います。もし、その踊り場がゴールならば、今までの苦しみは全てふっとんでしまうと思います。それは幸せなことかもしれませんが、人生を味わうこととは言えないのです。

永遠を疑うことの必要性

人生の階段に踊り場しかなく、ゴールがないということは、いつまでものぼり続けることであり、永遠を疑いながらのぼるということです。永遠を心から信じるゴールがあれば、そこで永遠の柱は終了で、逆に永遠はなくなるのです。

人はなかなか永遠を信じにくいものです。しかし、疑いながらも、信じようと努力するきわどさが大切だと思います。信じすぎることは、その信じるものによって満足しきって、宝探しをやめてしまうことです。

この、永遠を信じにくい世界で、信じる気持ちは、何か万能なものに出会わないと、ほぼ存在できません。しかし、本当の永遠は、疑う気持ちとセットになっているのだと思います。疑う気持ちとは、戦い続ける気持ちと同じです。本当に永遠を信じきればどんなに幸せだろうと私も思うのですが、戦い続ける覚悟ができたとき、階段の踊り場にいるときこそ、永遠にとどく柱、階段が見えるのです。そして、今まで出会った物たちがその柱の足がかりとなっていることも、見えてくるのです。自分が永遠だと信じる万能のものと出会ってはいは、その、のぼり続ける柱、階段は見えにくいのです。それは、その万能のものが人生の全てになってしまい、他のものがかすんでしまうからです。のぼり続ける現在進行形でいてこそ柱は浮かび上がるのですね。

いろんな物が私たちの永遠を形作るという考え方について書いてみましたが、一つの宝物を大切にすることも素敵です。（それについては、「宝物を大切にする方法」で書きました。）大切なことは、永遠の力というものは、常につくり続けるものであることです。たくさんのもので形作り、つくり続けてもいいし、一つの宝物が、「つくり続ける」という意味を持っていれば、その一つはきっと、永遠の柱の土台となっていると思います。私はあの指輪に、つくり続ける意味をこめていませんでした。だから私は苦しくなったのでしょう。しかし、私が一つの指輪を大切に続けたことにも意味がありました。その指輪の重みが、私に、苦しみを軽くするための宝さがしの旅をうながしてくれたのです。私は、今はその指輪を持っていません。しかし、大切な人々からのプレゼントを見て思いました。物はいつも私たちの、永遠に向かう素晴らしい旅の一部だと。これからも、その旅を続け、素敵なものと出会い、その力を引き出していこうと思います。